

社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会  
理事長 木下 宣世 様

2024（令和6）年5月29日

監事

南

純

印

監事

足達裕昭

印

## 2023（令和5）年度 監事監査報告

監査実施日 2024（令和6）年5月15日（水） 9:30～16:45  
監査実施場所 望みの門本館（富津市川名1436）  
シオンホール及び会議室  
対象施設 法人本部及び法人内全施設

### 監査事項

#### 1 法人本部関係

- （1）決算書、総勘定元帳、補助簿、その他関係書類
- （2）定款、諸規程の整備状況
- （3）人事、労務関係
- （4）理事会関係
- （5）事業報告書

上記を監事監査点検表の項目に従い確認しました。

#### 2 各施設関係

- （1）決算書、総勘定元帳、補助簿、その他関係書類
- （2）事業報告書に基づく事業運営、利用者の状況、職員の人事等

上記（1）を監事監査点検表の項目に従い確認しました。

上記（2）を施設長からのヒアリングを中心に確認しました。

## 監査結果

上記監査事項について、2023（令和5）年度の法人、各施設及び事業の運営状況ならびに財産状況を監査した結果、いずれも適正であった。

なお、特筆すべき点や気付いた点については以下に記しますので、今後の運営において留意または修正を要する事項につきましては適切に対応されるよう願います。

### 1 運営全般

社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会はこれまで東京と富津市に拠点をおいて福祉事業全般を展開してきたが、2022年5月には創立60周年の記念式典を執り行い、『創立60周年記念誌』を発行し、「地域と共に歩む一愛と奉仕の灯を掲げて」というテーマのもとにさらに前進しようとしていることが伺われます。

このような歩みを感謝をもって振り返るとともに、これまでこれらの活動を支え、またその重責を担ってこられた職員各位のご労苦にも改めて深い感謝を覚えます。

さて、今回は2023年度の報告を伺いましたが、各事業部のご努力に深い敬意を表すると共に、さらにその発展を期待して、以下に今後の課題を指摘しておきます。

- (1) 創立60周年を越えて本法人の事業全体を更に維持発展させるためには、ハード面では今後も老朽化している各施設建物の継続的な維持補修・改築などに取り組まざるを得ないでありましょう。なお、今後も予期しない災害等をも念頭において、資金面を含めて長期的段階的な視野に立った対策を講じておく必要があると思われます。
- (2) ソフト面では、300名を越える職員全体が、法人設立の根本精神であるキリストの愛と奉仕とを積極的に学びつつ、それぞれの部署での積極的な活動を通して地域社会への貢献が求められましょう。なお、福祉施設の慢性的な人材不足の中で、職員の補充に努めるとともに、研修や交流を通して更なる資格の獲得や資質の向上を図り、少しでも働きやすい職場の構築を目指していただきたいと思います。
- (3) 各施設においては、新型コロナウイルスの第五類移行後も警戒を怠らず、万全の対策が講じられ、利用者の安心と安全が保持されてきたことを感謝をもって覚えたいと思います。しかし、なお一層の利用率の増加とサービスの向上とを目指しつつ、諸種の訓練や設備の点検を実施して、将来の災害に対策を講じ、また食中毒や集団感染症等の防止にも努めていただきたいと思います。
- (4) 法人運営全般については、隔月で開催される幹部会が各施設や活動の状況と問題点を共有する貴重な機会となっているが、コロナ禍のためバザーや運動会が中止となっており、再開が望まれる。なお、職員の採用と定着率アップのためには一層の対策が必要であろう。
- (5) 県の監査による指摘事項があることを確認しました。



## 2 経理関係

私たち監事は、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、重要な要決議事項について審議し、議決されて法人運営が正しく行なわれていることを確認しています。

さらに、会計帳簿及びこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について監査をいたしました。監査の結果、資金収支計算書、事業活動計算書、及び貸借対照表は真実かつ適正に表示しているものと認めます。

監査手続きは「監事監査点検表」をもとに補助者足達直人（税理士）と監査を行いました。

- (1) TKCFX4クラウド社会福祉法人用会計システムを活用し、拠点毎の入力により、より効率的な会計処理が図られていることを確認しました。
- (2) 2023（令和5年度）年度貸借対照表（集計表）、資金収支計算書（集計表）及び事業活動計算書（集計表）はTKCFX4クラウド会計システムから切り出し機能を活用して、正確に表示していることを確認しました。
- (3) 原始記録としての各拠点毎の金銭出納帳は「小口現金取扱規則（内規）」に基づき、支払業務の円滑化が図られています。現金有高金種別残高表に、適時に正しく記載されていることを確認しました。領収書等の証憑書類は、令和5年9月までは手書き起票、10月以降はPCから出力した仕訳伝票の裏面に貼付するなど、整理保管されています。
- (4) 各銀行の預金残高証明書および貸付金残高証明書の原票により預金残高および借入金残高を確認しました。拠点毎の「預金等一覧表」および「預金調整表」により残高証明書とも突合いたしました。
- (5) 借入金返済予定表から一年以内に返済する金額および残高を各拠点毎に正しく計上されていることを確認しました。
- (6) 寄付金台帳及び寄付金の授受は受取控えにより突合しました。  
企業から商品の寄贈を受けた場合にはその商品の販売推定価格の70%を評価額として正しく計上していることを確認しました。
- (7) 投資有価証券には君津信用組合および君津市農業協同組合への出資金を確認しました。ちばぎん証券㈱及びみずほ証券㈱の残高明細・取引明細はファイリング保管されていることを確認しました。
- (8) 社会福祉充実残高はマイナス238,840,000円であり、社会福祉充実計画の策定は不要であることを確認しました。
- (9) 会計監査人の設置、収益10億円超又は負債総額20億円超の法人は会計監査人設置が義務化される方向であるので準備をしてください。現在は収益が19億9千万円、負債総額13億7千万円となっています。
- (10) 各施設、稟議書により請求、支払い等の運用が正しくなされていることを確認しました。
- (11) 電子帳簿保存法の適用により電子で受領した書類、証憑書等が直接PCに保存され、今後は紙等で受領した書類等はスキャンしてPCに保存されるので確認はPCの画面で行うので大変であるが、今後ペーパーレス化により推進していく必要があると思われます。今後監査の方法も変わってきます。



### 3 各施設関係

- (1) 東京望みの門は、小規模ながら緊急一時保護所と児童自立援助ホームとしての貴重な働きを担い、関係機関と連携しつつ、それぞれの役割を誠実に果たしていることが伺われる。また、退寮生へのアフターケアに力を注いでいる点も評価される。

なお、高齢化している職員の補充も急がれるが、東京望みの門がミッドナイトミッションのぞみ会の精神と働きを良く継承していると評価されるだけに適切な人事が期待される。

- (2) 望みの門学園は、富津の地でミッドナイトミッションの働きを長く体現してきたが、2024年4月からは従来の「婦人保護施設」から「女性自立支援施設」へと変更され、職員も利用者も新たな理解と対応が必要となるであろう。なお、引き続き母子の入所をはじめ利用者の増加を計るとともに、利用者の就労支援や生活支援の強化を図っていただきたい。また、利用者の聖書研究会や礼拝への参加などを促し、望みの門創立の精神の継承にも一層力を注いでいただきたい。

- (3) 養護老人ホーム望みの門楽生園は、新規利用者の開拓等によりその稼働率を95%に引き上げたことは評価されよう。しかし、利用者の高齢化が進む中で、職員と利用者の安心と安全にも一層努めていただきたい。なお、施設全体の老朽化が進む中で補修や交換だけでなく、そろそろ抜本的な対策が必要と思われる。

- (4) 特別養護老人ホーム紫苑荘は、職員としてミャンマーからの技能実習生4名を引き続き受け入れ、稼働率も97%を維持できたことは評価されよう。今後も職員のモチベーションの向上や資質の向上に努めると共に利用者の安心と安全を高めて頂きたいと思います。なお、施設設備の老朽化に対しては継続的な補修と共に建て替えを含む抜本的な対策が必要であろう。

- (5) 富士見の里では、本年3月末から新型コロナウイルスの感染が利用者と職員に広がったが、4月末で終息していることは職員全員の協力と配慮の賜物と言えましょう。しかし、第五類移行後も様々な感染症に対して引き続き万全の対策を講じて、利用者の安全と安心に備えていただきたいと思います。なお、そうした中で利用率97.7%を維持できたことは評価に値するが、介護職員のスキルアップや新規職員の採用にも努めていただきたいと思います。

- (6) 児童福祉施設かずさの里については、知的障害児や虐待児が増加する中で、小規模グループケアに取り組み、6グループ体制を維持しているが、中高生が多いためか必ずしも安定を得られていない。なお、施設での養育と学校生活との連携を密にすると共に、職員間の協働と専門的知見の活用が求められているように思います。

- (7) 児童家庭支援センター・ピーターパンの家の活動については、コロナ禍の中でも地域社会からの相談件数を4500件強まで着実に伸ばしていることやさまざまな機関との連携を図りつつ里親支援活動の充実にも取り組んでいることは評価されますので、一層の展開が期待されましょう。

- (8) 望みの門方舟乳児園は、「新しい社会的養育ビジョン」によって、一時保護的役割を帯びてきていると思われますが、新しい職員の確保と定着、さらに稼働率のアップに課題を残していると思われます。

- (9) 児童心理治療施設（情緒障害児短期治療施設）木下記念学園は開設9年目を迎えたが、クリニックをも併設して良き成果を得ていると思われます。また、暫定定員を24名（なお2024年度より25名に確定）としたことと高校生支援の開始や「こども会議」の継続によって、全体的な安定が図られていると思われます。

- (10) 障害者の就労継続支援事業である新生舎は創立24周年を迎え、利用者の高齢化と新規利用者の確保という課題を抱えているが、今後は利用者に見合うサービスの提供と工賃の向上に工



夫も必要であろう。また、ベーカリー事業の場合、材料費高騰の中で価格改定や販路の拡大などの検討が必要であろう。なお、今後とも定員の確保と稼働率のアップに努めて頂きたい。

- (11) 通所介護事業のデイサービスセンターは本館内に拠点を移して設備も充実し、利用者定員も40名に増員されましたが、コロナ禍を経てその活動も本格化しつつあるが、年間稼働率目標85%に対して79.2%に留まっており、今後新規利用者の開拓とサービス向上に努めると共に職員の確保とスキルアップに努めていただきたい。
- (12) 中核地域生活支援センター「君津ふくしネット」は、4市（袖ヶ浦、木更津、君津、富津）の子どもや成人の包括的な相談支援を24時間365日体制でその役割をよく担っていると評価される。君津圏域グループホーム連絡協議会の事務局を担い、また障害者虐待防止センターの役割を一層積極的に担って頂きたい。
- (13) 富津地区地域包括支援センターは、三地区（富津・大佐和・天羽）の地域包括支援センターの機能強化を図りつつ、直営担当件数の増加を目指しているが、なお一層の展開が期待されよう。  
なお、今後とも専門職員との連携を計ると共に、地域福祉を担う諸機関との連絡を密にして地域福祉の充実に尽くしていただきたい。
- (14) 共同生活援助事業（介護サービス包括型）のグレースホームについては、入所者の高齢化やその重度化が進む中で、それを支える職員の高齢化も進んでいるため職員の連携と協調によって何とか対処していただきたい。なお、施設の老朽化に対しては全体的な構想が検討される必要がある。
- (15) 訪問介護事業・日常生活支援総合事業「望みの門ホームヘルプサービス」は、コロナ禍の中でも在宅の利用者たちを良く支えてきたことは感謝すべきであろう。しかし、今後の利用者増のためにはヘルパーのスキルアップと共にその増員が必要であろう。
- (16) 居宅介護支援事業である「望みの門在宅サービスセンター」は、地域の利用者が適切な医療・介護・福祉サービスを受けるために3名の介護支援専門員によるケアマネジメントを運営しているが、今後もその専門的な知見を高め、他の事業所とも連携しつつ利用者（年間利用者数109件）の更新を目指していただきたい。
- (17) 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業「望みの門ベテル」は、新生舎と連携しつつ始まったが、現在は外部の諸事業所とも連携を図りつつ、その相談支援事業を積極的に進めている。現在はそのネットワーク的役割を果たしているが、更にそれぞれにふさわしい利用が受けられるよう、相談員の増加と共に新規登録者の獲得を目指していただきたい。
- (18) 有給休暇消化率が楽生園45.52%、かずさの里47.62%と低いので、職員の増加を図り消化の向上を目指して頂きたい。